

あすを拓く

「椅子にはそれぞれの物語がある」
若き椅子張り職人はそう語った。
お客様の思い出に耳を傾け
大切な椅子に新しい命を吹き込む。



CHAIR BANK

代表 櫻井優さん

プロフィール
1985年、松島町生まれ。高校卒業後に仙台市内のインテリア会社に就職。仕事の現場で出会った、椅子張り職人の手さばぎに感激し、職人を志す。埼玉県内の工房で、7年間修行を積んだ後、独立。塩竈市内に椅子の張り替え専門店を開業する

インテリアの営業マンから転身 椅子張りに魅せられ職人の道を志す

櫻井さんは高校を卒業した後、仙台市内のインテリア会社に就職した。様々な建物の内装工事や家具の入れ替えに立ち会い、壁紙や床を張り替える職人や大工などの仕事をみてきた。

ある日の現場で、櫻井さんは椅子の張り替えをしている職人を見かけた。口にくぎを含み、片手で椅子を押さえながら、テンポよく金づちで革を打ち付ける。張り終えた革が描く美しい曲線に心を奪われた。

こうして、椅子張り職人に魅力を感じた櫻井さんであったが、その後仕事を通じて出会った職人たちから思いがけない言葉を耳にする。古い椅子の修理を依頼すると、しばしば「この椅子は直せない」と告げられたのだ。

「椅子の素材やつくりは、時代の流れとともに変化していきました。そのため、100年以上前から使われてきたような古い椅子を直すための知識と技術を持った職人が減っていたのです」

それならば、職人に見放された椅子を自分が救いたい。そう思った櫻井さんは、椅子張り職人になる決意をした。

厳しい修業時代を乗り越え地元で独立 依頼者の心に寄り添い椅子を再生する

埼玉県で始まった約7年間の修行生活は、

想像を超える厳しさだった。最初の2年は、修理する椅子の生地をひたすら剥がす毎日が続いた。親方からは「仕事は見えて覚えろ」と教えられるだけで、失敗すれば「帰れ！」と怒鳴られた。

「下積み時代は、帰宅してから悔し涙を流すこともありました」と振り返る櫻井さん。夜中まで工房に残り、一人で練習に打ち込んだ。「いつか見返してやる!」という反骨精神が成長の支えになった。

3年目になると、櫻井さんは次第に一人で仕事を任されるようになった。そして、2013年に1級家具製作(いす張り作業)の技能士資格を取得すると、翌年に塩竈市内に店を構え独立した。

開業当初、「兄ちゃん、椅子の修理なんかで食っていきけるの?」と、周囲の冷ややかな声を聞いた櫻井さん。「まずは仕事について知ってもらおう」と思い立ち、毎朝店の前に椅子を並べ、工房で修理に没頭した。櫻井さんの仕事は、椅子が持つ「物語」を修理の依頼者から聞き出すことから始まる。使われてきた場所や時間、手に入れた時のエピソードなどから、張り替える革の材質や中に入れるクッション材の量などを提案するという。

「こうして、一生付き合える椅子に仕上げること、世代を越えて受け継がれる椅子になります。椅子張り職人には、ただ直すための技術だけではなく、長く椅子を使い続けたいという人の心に寄り添うことが求められるのです」と語った。

口コミ広がり全国から依頼を受ける 独立を視野に人材の育成にも力を注ぐ

櫻井さんの丁寧かつ確実な仕事は、口コミで広がり、全国から様々な椅子の修理の依頼が舞い込んだ。椅子の数が多い場合は、職人が道具を持って現地まで足を運び、泊まり込みで作業を行うこともあった。

「いい仕事をすれば、次の仕事につながる。この人に直してほしいと言われることは、職人として最高の喜びです」

店では櫻井さんほかに4人の若手職人が、販売や営業まですべて一人でやっている。現在は椅子張り職人になるため、職業訓練校で学ぶケースが多い中、あくまで現場で実践を積むスタイルにこだわる。

「ここでは、技術を学びながら給料を得ることが出来ます。ものづくりの喜びとやりがいとすぐに得られることも、現場で学ぶ魅力ではないでしょうか」

厳しくはあったが、仕事以外のことにも親身になってくれた親方から学んだ技術と心意気を弟子たちにも伝えている。櫻井さんは、弟子たちが将来独立することも見据えながら指導している。

「いつの日か自分を越えるような職人になってほしい」と思いながら教えています。でも彼らには、自分負ける気はありません」と笑顔で話す櫻井さん。その表情は、これまで歩んできた職人としての自信と誇りに満ちていた。



カフェ風の佇まいの店舗。張り替えを終えた椅子やソファが並び、通行人の注目を集めている

鹽竈神社の表参道のすぐそばに、椅子の張り替え専門店「CHAIR BANK」はある。店先にはアンティークチェアが並び、中には革が傷んで座れそうにないようなものもあった。

「この椅子は、捨てられそうになっていたもの。でも、革を張り替えれば、新品同様に再生できるんですよ」と店主の櫻井優さんは話した。

あえてポロポロになった椅子を外に出し、それを修理した後に再び外に置く。そうすることで、通りすがり人たちが椅子の変化に驚き、椅子張りの仕事に関心を持つてくれるのではないかと考えているという。

「ヨーロッパでは、今でも世代を越えて椅子を使い続けます。かつては日本にも家具を大切にする文化がありました。この店を通じて、そのことを多くの人に伝えることができればと思っています」



クッションに芝草が使われているようなアンティークチェアも対応可能



特殊なミシンを使って、丁寧に革を縫い上げる



一番若い職人は、高校に通いながら技術習得に汗を流す



「お客様から預かった椅子を、この手で再生できることは幸せなこと」と話す



CHAIR BANK

椅子の張り替え、修理の専門店として、2014年9月にオープン。店名には「預金に利子をつけて返す銀行のように、預かった椅子をより良い形で届けたい」との思いが込められている

所在地
塩釜市西町 3-17
TEL 022-794-7688
<http://www.chair-bank.com/>

